

【参考文献】 1) 加藤隆・行武潔・吉本敦 (1998) 林産業を支えるブラジルの人工林資源: 熱帯林業No. 41, 2) 田嶋謙三 (2000) 森林の復活—林業の立場から: 朝日選書 649, 3) (社)国際農林業協力協会 (1995) ブラジルの農林業, 4) 村上章 (2001) ブラジル・セニブラ社のユーカリは今 (2) 植林事業: 甘利敬正編著 “もっと知ろう世界の森林を (日本林業調査会)” 所収

## 図書紹介.....

◎インドネシアの火災と煙霧—大災害による損失— (David Glover & Timothy Jessup (Ed.), Indonesia's Fires and Haze—The Cost of Catastrophe—, xviii+149 pp. International Development Research Center, Ottawa, ON, Canada, 1999) 4,900 円

本書は EEPSEA (東南アジア経済・環境計画) と WWF・インドネシアの共同作業による成果で、1997 年インドネシアで起こった大規模な森林火災が、自国ばかりでなくマレーシア、シンガポールなど近隣諸国に及ぼした影響を分析・評価したものである。執筆者は数名の関係者が分担している。

評価は最終的に被害額のかたちで表示されているが、その過程においては、さまざまな指標やモデル式が用いられている。被害額の算定は、1997 年 8～10 月の 3 ヶ月間と前年の同期間 (過去 5 年間の平均値あるいは平常と思われる年の数値も適宜使用) との比較から行われ、金額は火災が起こる前の 1 米ドル = 2,500 ルピアで計算されている。

評価項目は“煙霧”に起因する健康上の被害 (医療施設への外来患者数、薬局での薬剤購入者数など)、それによる労働生産性の低下、空港閉鎖、飛行便の欠航や旅行者の減少による損失、“火災”による木材その他の林産物、農作物などの被害、消火活動にかかった費用、その他である。

こうして被害額査定の対象期間を 3 ヶ月に限定しても、控えめに見積もって、煙霧による被害が約 10 億米ドル、火災によるものが約 30 億米ドル、総計 40 億米ドルと算定された。ただし、積算の基礎となった項目の中には、長期的な影響を考慮したためか、過大と思われる被害額を想定したもの、例えば森林生態系の機能低下など、が含まれており、いささか気になるところである。

本書は、「火災の原因と影響」、「研究方法」、「マレーシア」、「シンガポール」、「インドネシア」、「結論及び政策上の勧告」の 6 章からなる。なお、「インドネシア」で扱われている地域は火災のひどかったカリマンタンとスマトラ島だけで、インドネシア全体ではない。

(小久保 醇)